PanelsDB2についての覚書

Ver 1.4

20201015

文責　fk506cni

1. はじめに
   1. 本文章は、癌遺伝子パネル検査結果を格納するDBについての各種覚書です。
   2. NCCオンコパネル、F1CDxのxmlレポートを機械的に抽出するシステムを作ったので、使いたければどうぞ、という内容です。
2. COI
   1. このFMDBの大部分は、小生がF1CDxの国内実施母体である中外製薬を含む、各企業の共同出資で設立された寄付講座の雇われ研究員であった時分に作成したものです。
   2. FMDB作成にあたって中外製薬から特に指示や依頼があったわけでは無いですが、その様な関係に基づいて作成されたものであることはここに記載しておきます。
3. ライセンス
   1. 本DBおよびこれに付随する各種データ(xsltなど)について、非営利目的であれば診療、および研究のために自己責任で自由に使用、改造、再配布して頂いて構いません。再配布の際のライセンスは、本DBのライセンスに準じるものとします。
   2. 読み込み部分の中核は作成しましたので、あとはユーザーの環境に合わせて改造いただければと思います。
   3. 小生に各種サポートのリソースはございません。本DBの利用、改造、再配布に関する一切の責任はユーザーが負うものとします。
4. 準備、必要環境
   1. 本DBはwindows OSのローカルPC上にDBファイルを置いて運用する想定になっています。いくつかの中核機能は、MacPC上では動きません。これはファイルパスの文字列処理によります。スクリプトの修正で対応できるとは思いますのでMacユーザーは修正を検討ください。
   2. WindowsPCに適当なVerのFilemakerが入っていることを前提にしています。
   3. すぐの購入が難しければ体験版を利用されるとよいかもしれません。(体験版Filemakerでの動作は確認していません)
   4. ランタイムソリューションとはしていません。またFMサーバーでの利用経験はありません。
   5. ということで適当なverのFilemakerを購入してください。開発はFilemakerPro 16 advで行いました。
   6. ファイル管理構造  
      以下のようなファイル管理様式を想定しています。  
        
       F1用親フォルダ  
       F1症例1フォルダ  
       症例1.xml  
       F1症例2フォルダ  
       症例2.xml  
       F1症例3フォルダ  
       症例3.xml  
       NOP用親フォルダ  
       NOP症例11フォルダ  
       症例11.xml  
       NOP症例12フォルダ  
       症例12.xml  
       NOP症例13フォルダ  
       症例13.xml
5. 使い方概要
   1. 本DBは、パネル検査で返却されるxmlデータを可能な限り構造を維持したまま一元的に格納することを目的にしたものです。例えば特定の遺伝子に絞って過去症例を探す等の場合に、PDFを総ざらいする事態を避けたい、といった動機によります。
   2. xmlデータをまとめて飲み込むことを目的に開発しており、ユーザーが興味のある他の変数を合わせて登録、関連云々をDB上で解析することは想定しておりません。その研究のためには他にテーブルを作るか、別にデータを集めておくことをおすすめします。
   3. 本DBは、上記の親フォルダの下にある新規xmlを毎回飲み込む仕様になっております。これは京大病院のFilemakerのVerによるところがあります。
   4. 患者IDなどとリンクしたい場合は、症例xmlの入った子フォルダの名前を  
      20200105\_patientidxxyyzz  
      といった記載にしてください。アンダーバーで切った前後をレポート情報に合わせて飲み込む使用になっています。
   5. 上記のidがあれば、後で適当な研究用別テーブルとマージはできるのではないでしょうか。
   6. F1CDx、NOPのxmlの構造自体についてはここで解説しません。別にスライドを作成したので、そちらをご確認ください。臨床医ならレポートとxmlを対比すれば何となく分かるでしょう。注意事項としては簡単には以下です。
      1. 変異についての薬剤情報は付随しません。
      2. F1, NOPで形式が全く異なります。
      3. TMBは小数点以下を持っています。
      4. LOHスコアは保持していません。
   7. 研究利用について、自己責任でご自由に使われれば良いと思いますが、RやPythonを使われる場合は、各種解析はodbc接続でデータを得るのがスマートではないかと思います。
   8. citationは未定です。本DBを利用され研究された成果を発表される場合は連絡いただけるとありがたいです。
6. 使い方詳細
   1. 別にスライドを用意しました。
7. アカウント
   1. 管理者アカウントは  
      名前:Admin  
      パスワード:DR>ba)4W&L
   2. パスワードを記憶、手打ちすることは想定しておりません。各施設に適したパスワードに変更してください。